### 九州地区における献血推進活動

- ・平成27年度に取り組んだ献血推進事業
- ・平成28年度に取組予定の献血推進事業

### 【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (福岡県)地方民間鉄道会社と協働した献血推進の広報展開

【1目的】・・・・管内を走行する電車利用者をはじめ、市民の方に広く献血思想の普及を進める。

【2内容】・・・・電車車体1編成にフルラッピングを施し、『動く広告塔』として活用するとともに、 黒崎駅前駅から徒歩12分の献血ルーム くろさきクローバーへの誘導を行う。

【3実施日・場所】・・・・平成27年1月21日より平成28年3月31日

【4対象者】・・・・鉄道利用者及び沿線住民など

(沿線には高等学校が8校立地しており、同鉄道を約2000名が通学利用しているため、10代の献血者の増加対策)

【5実施手順】・・・平成26年度事業に引き続き実施

【6実施に際して苦労したこと】・・・特になし

【7予算額】 - - - 1,300,000円

【8来場者】・・・把握できず

【9効果(評価)】・・・『動く広告塔』として週6日間走行しており、広告掲載媒体としては大きく貢献できた。また、車内告知ポスターを広告料金無償で設置していただく等、付加価値が広がった。(1月下旬の降雪に起因した在庫不足時に緊急的な献血者募集案内にも効力を奏した。)

【10改善点(又は問題点又は反省点)】・・・特になし

【11今後の課題(又は今後の対応方針)】・・・予算削減の観点から、平成29年1月20日までの実施となる。

## 【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (福岡県)地方民間鉄道会社と協働した献血推進の広報展開









移動献血車のイメージで日赤 のロゴマークを入れた

### 【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (福岡県)地方民間鉄道会社と協働した献血推進の広報展開



年間を通じて献血PR広告コラボ企画





2月の在庫状況悪化時期に緊急依頼

## 【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (福岡県)県道沿い野立看板を活用した 献血ルーム くろさきクローバーのサイン看板

【1目的】・・・・県道を走行するマイカー利用者等に広く献血ルームの紹介を展開する。

【2内容】・・・・主要県道沿いに立地した野立看板に献血ルーム くろさきクローバーの紹介を掲示

【3実施日・場所】・・・・平成27年4月1日より平成28年3月31日

【4対象者】・・・・献血ルーム くろさきクローバー方面に走行するドライバー及び通行人

【5実施手順】・・・平成26年度事業に引き続き実施

【6実施に際して苦労したこと】・・ 特になし

【7予算額】・・・388.000円

【8来場者】・・・把握できず

【9効果(評価)】・・・看板周辺については夜間帯は暗くなることから、『献血に行こう!』の文字を反射シールを活用し、夜間でも認識が可能となるように作成、献血告知に大きなアピールができた。

【10改善点(又は問題点又は反省点)】・・・特になし

【11今後の課題(又は今後の対応方針)】・・・平成28年度も実施継続となる。

## 【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (福岡県)県道沿い野立看板を活用した 献血ルーム くろさきクローバーのサイン看板



縦:3.7m × 横:4m





## 【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (福岡県)公共交通機関を利用した 小倉魚町献血ルーム増加対策

【1目的】・・・・小倉魚町献血ルームの献血者増加対策

【2内容】・・・・JR駅コンコース及びモノレール車内、路線バス後部への小倉魚町献血ルーム広報

【3実施日・場所】・・・・平成27年10月1日より平成28年9月30日(一部は平成28年4月まで)

【4対象者】・・・・各公共交通機関利用者及び路線バス走行エリアの車輛利用者

【5実施手順】・・・広告代理店を通じ、各媒体への広告展開

【6実施に際して苦労したこと】・・・特になし

【7予算額】 ••• 1,549,468円

【8来場者】・・・把握できず

【9効果(評価)】・・・JR小倉駅コンコース及び北九州モノレール車内、西鉄バス小倉地区車輌に 献血ルームの案内を掲載、多くの方に見ていただき献血思想普及に繋がった

【10改善点(又は問題点又は反省点)】・・・費用対効果の検証ができていない。

【11今後の課題(又は今後の対応方針)】・・・一部事業は平成28年度も実施継続となる。

## 【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (福岡県)公共交通機関を利用した 小倉魚町献血ルーム増加対策





JR小倉駅コンコース

## 【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (福岡県)公共交通機関を利用した 献血ルーム くろさきクローバーの案内

【1目的】・・・・平成26年12月に開設した「献血ルーム くろさきクローバー」の案内アナウンス

【2内容】・・・・路線バス車内での「献血ルーム くろさきクローバー」の案内アナウンス。

開設間もない施設のため、市民の皆さんの存在を覚えていただくために、一日上下線合わせて、418本最寄のバス停直前にバス内で放送(次は・・・献血ルームくろさきクローバーにお越しの方は次でお降りください)し、利用者に対して徹底したアナウンスを行い、記憶に留めていただく。

【3実施日・場所】・・・・平成27年4月1日より平成28年3月31日

【4対象者】・・・・西鉄バス北九州乗客

【5実施手順】・・・広告代理店を通じ、展開

【6実施に際して苦労したこと】・・・ 特になし

【7予算額】…461.700円

【8来場者】・・・把握できず

【9効果(評価)】・・・献血ルーム くろさきクローバーの最寄バス停を通過するバス車内(平日1日あたり418本)で、献血ルーム くろさきクローバーの広報を展開、幅広く広報が実施できた。

【10改善点(又は問題点又は反省点)】・・・費用対効果の検証ができていない。

【11今後の課題(又は今後の対応方針)】・・・平成28年度も実施継続となる。

### 【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (福岡県)地方公共団体車輌への献血広報ステッカーの貼付

【1目的】・・・・献血思想のさらなる普及を目指す。

【2内容】・・・・管内市町村の公用自動車へ献血広報ステッカーを貼付。

【3実施日・場所】・・・・ 平成27年1月より

【4対象者】・・・・管内の住民をはじめとした一般市民

【5実施手順】・・・広報ステッカーを作成し、血液センター側より各公共団体献血担当部署へ 貼付依頼

【6実施に際して苦労したこと】・・・ 特段なし

【7予算額】・・・150,000円(シール作成料)

【8来場者】・・・把握できず

【9効果(評価)】・・・公共団体をはじめ、民間事業者の車輌にもステッカーの貼付を行い、当初予定より多くの車輌へ貼付を行うことができた。

【10改善点(又は問題点又は反省点)】・・・費用対効果の検証ができていない。

【11今後の課題(又は今後の対応方針)】・・・平成28年度も実施継続を検討したい。

## 【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (福岡県)地方公共団体車輌への献血広報ステッカーの貼付



北九州市公用車約1,000台に貼付

### 【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】(福岡県) 『第64回日本医学検査学会における 日本赤十字社の血液事業紹介および献血の実施』

九州ブロック血液センター学術情報課と福岡センター関係課が共同して学会参加者に対し、血液事業の紹介と献血を実施する。

【1目的】第64回日本医学検査学会において、学会参加者へ日本赤十字社の血液事業 (献血から輸血まで)を紹介し、理解を深めていただき、さらなる相互協力を 推進することを目的とする。

【2内容】①献血バス1台配車による献血の受け入れ(福岡センター)

- ②血液事業紹介コーナー(九州ブロック学術情報課)
- ・会場内に展示ブースを設置(ビデオ上映、パネル展示、質問コーナーなど)

【3実施日・場所】 平成27年5月16日(土) 福岡市 マリンメッセ福岡

【4対象者】 学会参加者 約3,000名

【5実施手順】4月 イベント企画会社とブロックセンター、福岡センター担当者による打合せ。

【6実施に際して苦労したこと】 主催者およびイベント企画会社との連絡調整。

【7予算額】65,500円(献血者処遇品:150名分)

【8来場者】 学会参加者 約3,000名

【9効果】 献血参加者120名、協力者109名(400mL献血) 多数のご協力があり、血液確保できたこと。また、学会参加者に対し、血液事業紹介を行い関係者からの理解を深めることが出来た。

【10今後の対応方針】 今後も各種イベントへの参加を積極的に行い、血液の確保並びに血液事業の普及啓発を図る。

### 【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】(福岡県) 『第64回日本医学検査学会における 日本赤十字社の血液事業紹介および献血の実施』





12

### 【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 (福岡県)地方公共団体車輌への献血広報ステッカーの貼付

【1目的】・・・・献血思想のさらなる普及を目指す。

【2内容】・・・・管内市町村の公用自動車へ献血広報ステッカーを貼付。

【3実施日・場所】・・・・平成27年1月より

【4対象者】・・・・管内の住民をはじめとした一般市民

【5昨年度実績】・・・・平成26年度より継続事業

【6実施手順】・・・広報ステッカーを作成し、血液センター側より各公共団体献血担当部署へ 貼付依頼

【7予算額】・・・150.000円(シール作成料)

【8目標(効果)】・・・公共団体をはじめ、民間事業者の車輛にもステッカーの貼付を行い、多くの車輌に貼付を行うことで、献血思想の普及を目指す。

【9実施に向けた課題】・・・特段なし

### 【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 (福岡県)地方公共団体車輌への献血広報ステッカーの貼付



今年度使用予定のデザイン。昨年よりも剥がしやすい素材に変更 縦:10cm × 横:30cm

### 【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 (福岡県)30歳代の方に対する献血依頼レターの送付

【1目的】・・・・30代の献血者増加対策(「献血推進2020」)

【2予定内容】・・・・毎月2回、30歳の誕生日を迎えられる献血者を情報システムにて抽出し、ダイレクトメールを送付する。

10代・20代とは異なり、30代の増加対策の手段は難しく、一人ひとりへ現状の理解とこれからの10年間の献血への協力をお願いすることで、少しでも意識を持っていただき、複数回へ導く。

【3実施日・場所(予定)】・・・・平成28年4月~

【4対象者】・・・現在29歳で、近々に30歳を迎えられる献血経験者

【5昨年度実績】・・・・なし

【6実施手順】・・・血液事業情報システムにて30歳の誕生日を迎えられる献血者を抽出し、対象者 に引き続き献血への御協力をお願いするDMを送付する。

【7予算額】・・・ なし(他の予算を流用する)

【8目標(効果)】・・・30代の献血者の増加対策(「献血推進2020」)

【9実施に向けた課題】・・・特になし

### 【平成28年度に取組予定の献血推進事業】(福岡県) 『第99回 ライオンズクラブ国際大会における東日本大震災と 血液事業紹介に関する映像放映とパネル展示』

【1目的】海外から10,000人、国内から25,000人の参加が見込まれる国際大会において東日本 大震災と血液事業を紹介する映像とパネル展示を行うことで、日本赤十字社及び血液 事業のPRを行い、世界最大の社会奉仕団体の組織であるライオンズクラブとの更なる 関係強化を図る。

【2予定内容】10,000人が参加するパレードのゴール地点である天神中央公園内の出店ブースを 日本赤十字社ロゴマーク横幕で装飾。

ブース内で東日本大震災と血液事業の紹介に関する映像放映とパネル展示を行う。

【3実施日】 平成28年6月25日(土)~26日(日)

【4対象者】参加総数 35,000人

【5昨年度実績】 無し(今年度初)

【6実施手順】1月~ 国際大会ホスト委員会事務局へ申し込み 5月~ 日赤福岡県支部、ブロックセンターとの内容協議

【7予算額】50,000円(出店料)

【8目標】 来場者に対し血液事業に対する理解を深めることと、ライオンズクラブとの更なる関係 強化を図る。

【9実施に向けた課題】 日本赤十字社及び血液事業のPRを有効に行うために他の出展者との差別化を図る。海外からの来場者との対応として英会話可能な職員を配置することとしている。

4

## 【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (佐賀県) 事業名:「献血ふれあいフェスタ」

【1目的】県民の方々に献血を身近に感じていただくと共に、献血の必要性を認識してもらい、献血者 の確保に繋げる。

【2内容】献血推進団体に対する感謝状等の伝達・贈呈後、一日血液センター所長任命式(地元高校生)及び同世代である若年層へ向けた献血アピール、地元ミュージシャンによるライブステージ、献血に関するクイズ大会、ライオンズクラブやJRC等による献血呼びかけを行い移動採血バスを設営しての献血の受け入れ等を実施した。

【3実施日・場所】平成27年7月19日(日)・ゆめタウン佐賀

【4対象者】献血推進協力団体及び一般県民

【5実施手順】5月初旬、赤十字血液センターと企画内容等の調整を 行った。

【6実施に際して苦労したこと】県民の方々に献血の必要性について効果的にPRする方法について検討を重ねた。

【7予算額】県と赤十字血液センターで折半。

約130万円【内訳:広報費約31万円、イベント企画費約99万円】

【8来場者】献血者数 123人

【9効果(評価)】イベント告知のため1か月前からラジオ放送で献血の呼びかけを行ったことで献血の 重要性を認識してもらい、多くの献血者を確保することができた。

【10改善点】年々、若年層の献血者が減少しているため、さらに若年層への献血啓発につながるよう にしていきたい。

【11今後の課題 】平成28年度の実施に当たっては、赤十字血液センターと協議し若年層をターゲット にした効果のあるイベントにしていきたい。

### 【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (佐賀県) 事業名:「はたちの献血キャンペーン」

【1目的】成人を迎える若者に献血の必要性を認識してもらい、献血者の確保に繋げる。

【2内容】学生献血推進協議会と連携して、キャンペーンを実施した。学生献血ボランティアによる献血の呼びかけや20代の学生へ「一日血液センター所長」委嘱式を行い、若者からの献血への啓発を行った。また移動採血バスを設営しての献血の受け入れ等を実施した。

【3実施日・場所】平成28年1月11日(月祝日)ゆめタウン佐賀

【4対象者】献血推進協力団体及び一般県民

【5実施手順】10月初旬に赤十字血液センターと企画内容の調整と実施日の調整を行った。

【6実施に際して苦労したこと】県民の方々に献血の必要性を効果的にPRする方法について検討を重ねた。

【7予算額】県と赤十字血液センターで折半。

約130万円【内訳:広報費用約39万円、イベント企画費約91万円】

【8来場者】献血者数 117人

【9効果(評価)】イベントの告知のため1月~2月のキャンペーン期間中にラジオ放送で献血の呼びかけを行ったことで、冬期の献血者減少解消に大いに役立った。

【10改善点】年々、若年層の献血者が減少しているのでさらに若年層への献血啓発につながるように していきたい。

【11今後の課題】平成28年度の実施に当たっては、学生献血推進協議会及び血液センターと協議し さらに効果のあるイベントにしていきたい。

### 【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (佐賀県) 事業名:「コンビニ健診コラボ献血」

【1目的】特定健診・がん検診の会場において献血を実施することで、地域住民に献血について関心を持ってもらい、献血率を向上させる。

【2内容】住民に身近なコンビニで特定健診・がん検診を実施し、同時に、健康に関する啓発や相談等のイベントを行っている。このイベントの中で、移動採血バスによる献血、と献血に関する啓発を実施した。

【3実施日・場所】平成27年5月31日(日) 佐賀市内のコンビニ

【4対象者】一般県民

【5実施手順】3月から健診実施機関等と協議。

コンビニの周辺住民への周知。

(チラシ配布、ポスター掲示、回覧板での周知)

【6実施に際して苦労したこと】健康診断と献血を同時に実施することに関して、健診実施 機関に理解を得ることに苦労した。

【7予算額】なし

【8来場者】約200人

【9効果(評価)】健康について関心の高い参加者が多く、献血にも関心を持ってもらえた。

【10改善点】初めての開催だったため、イベントの周知が遅れた。

【11今後の課題】早い時期からイベントの周知を行い、より多くの方に参加してもらい、イベントを定着させていきたい。

## 【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 (佐賀県) 事業名:「献血ふれあいフェスタ」

【1目的】県民の方々に献血を身近に感じていただくと共に、献血の必要性を認識してもらい、献血者の確保に繋げる。

【2予定内容】献血推進団体に対する感謝状等の伝達・贈呈式、一日血液センター所長任命式、地元ミュージシャンによるライブステージ、献血に関するクイズ、学生献血ボランティア等による献血の呼びかけ、献血推進キャラクター「けんけつちゃん」「やよいけんけつちゃん」との記念撮影及び移動採血バスバスを設営しての献血の受け入れ等を実施する。

【3実施日・場所(予定)】平成28年7月中旬・ゆめタウン佐賀

【4対象者】献血推進協力団体及び一般県民

【5昨年度実績】献血者数 123人

【6実施手順】5月初旬に赤十字血液センターと企画内容の調整と実施日の調整を行う。 【7予算額】県と赤十字血液センターで折半。

約110万円【内訳:広報費用未定、イベント企画費未定】

【8目標(効果)】「献血ふれあいフェスタ」のイベント当日の献血者数目標120人 (内30歳以下30人25%)

【9実施に向けた課題】年々、献血者数が減少しているため、新たな広報戦略を図り若年層 への献血啓発につながるようにしていきたい。

### 【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 (佐賀県) 事業名:「はたちの献血キャンペーン」

【1目的】成人を迎える若者に献血の必要性及び重要性を認識してもらい、献血者の確保に繋げる。

【2予定内容】学生献血推進協議会と連携して、キャンペーンを実施する。学生献血ボランティアによる献血の呼びかけ(様式1参照)及び移動採血バスを設営しての献血の受け入れ等を実施する。

【3実施日・場所(予定)】平成29年1月初旬(成人の日)・ゆめタウン佐賀

【4対象者】主に30歳以下の若年層

【5昨年度実績】献血者数 117人

【6実施手順】10月初旬に赤十字血液センターと企画内容の調整と実施日の調整を行う。

【7予算額】県と赤十字血液センターで折半。

約110万円【内訳:広報費用未定、イベント企画費未定】

【8目標(効果)】「はたちの献血」のイベント当日の献血目標120人 (内30歳以下30人25%)

【9実施に向けた課題】年々、献血者数が減少しているため、新たな広報戦略を図り若 年層への献血啓発につながるようにしていきたい。

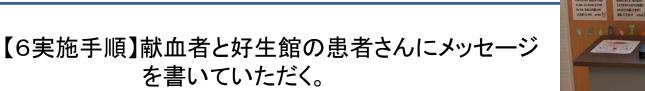
### 【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 (佐賀県) 事業名:「クロスレター交換式」

【1目的】血液を必要とする患者さんの感謝の気持ちと献血者の応援の声を相互に届け合うことで、血液がどのように活用されているのかを知っていただき、より献血に関心をもってもらう。

【2予定内容】献血者と患者さんに相互のメッセージを書いていただき、クロスレター交換式を実施する。また、血液センター等にメッセージを掲示

【3実施日・場所(予定)】交換式: 平成28年8月 佐賀県医療センター好生館

【4対象者】一般県民【5昨年度実績】なし



【7予算額】約 5万円

【8目標(効果)】献血された血液がどのように活用されているのかを多くの方に知って、 献血に関心をもってもらい、献血者増加につなげる。

【9実施に向けた課題】幅広い広報戦略を図り、「クロスレター」の取組を県民に伝えていきたい。

## 平成27年度に取り組んだ献血推進事業について【長崎県】 第2回「夏休み親子献血教室」

「夏休み親子献血教室」は、子供たちが夏休みの自由研究のテーマとして取り組むことで、他の生徒、保護者、学校関係者に対しての波及効果が期待される事業として取り組んだ。

- 【1.目 的】献血と血液についての知識を深めていただき、血液事業が取り組む若年層対策につながることを目的とした。
- 【2.内 容】事前に子供達から寄せられた疑問への回答。献血DVD視聴。血液型・輸血・献血についての話。保護者が献血する様子を見学。模擬体験ABO式血液型判定。献血呼びかけ。感想文提出。
- 【3.実施日・場所】平成27年7月26日(日)10時~14時、献血ルーム西海
- 【4.対象者】小学校高学年と中学生及びその保護者

【5.実施手順】6月開催決定。その後PRチラシ掲示と配布し、学校関係の献血者にも説明し参加を促す。 7月市内各報道機関(TV、新聞、ラジオ)訪問し、事前告知ではなく当日の取材依頼。

【6.実施に際して苦労した点】①会場が狭く20名ほどしか受け入れが出来ず机などの配置に苦労した。

【7.予算額】2万円

(内訳:参加者記念品1万円、昼食費1万円)

- 【8.参加者】24名(小学生9名、中学生3名、保護者12名)
- 【9.効果(評価)】参加申し込みの際、血液や献血についての疑問や質問を事前提出していただいた事で、子供達が何を知りたいか、何に興味があるかを把握し「献血教室」の構成に活かせることができた。

開催日に献血していただいた保護者で、献血初回もおられ、以降も献血協力を継続いただいている。

【10.今後の課題】28年度以降の実施に当たっては、より多くの受け入れが出来るよう広い部屋の借り入れができないか検討している。 さらに参加した子供たちが「献血と血液」をテーマとして作成した自由研究を掲示し献血の啓発に活用できるように したい。









#### 平成28年度に実施予定の献血推進事業について 【長崎県】「献血フェスタ2016inながさき」

【1目 的】 献血フォーラムなどを通じて、県民、特に若年層に献血に対する理解と協力を求めるとともに、献血運動の推進に長年に わたり積極的に協力していただいた個人や団体に対し、長崎県知事及び日本赤十字社長崎県支部長の感謝状を贈呈し、 献血推進功労に感謝の意を表することを目的に実施する。

【2予定内容】 献血フェスタ2016 in ながさき(平成28年度長崎県献血推進大会)

- ①厚生労働大臣表彰状‧感謝状伝達、長崎県知事感謝状贈呈
- ②日本赤十字社有功章等伝達、日本赤十字社長崎県支部長感謝状贈呈
- ③来賓祝辞、紹介
- ④輸血体験発表



【3実施日・場所】 平成28年7月23日(土)13:30~15:00 佐世保コミュニティセンター

【4対象者】 献血協力団体・協力者、長崎市内の高校生、大学等学生

【5昨年度実績】あり

【6実施手順】

5月 献血協力者等への出席依頼(文書)

6月 長崎市内の高等学校等に生徒、学生の参加呼びかけを依頼

7月 FMラジオ等で広報

【7予算額】県予算 約79万円(内訳:会場使用料13万円、感謝状·記念品等43万円、参加者交通費23万円)

【8目標(効果)】①100回以上の献血協力者に対して感謝の意を表し、継続的な献血への協力を得る。

【9実施に向けた課題】①時期的に各種イベントが多数開催されるため、生徒、学生の動員を確保することが難しく、若年層に対する啓 発の新たな手法の検討が必要。

#### 崎県献血フェスタ 2015 in ながさき

身近にできるボランティア「献血」について考えてみませんか?

(日時) 平成27年7月19日(日) 13時30分~16時

(場所)長崎大学中部講堂(長崎市文教町1-14) ※会場に駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

(内容)

第1部 平成27年度長崎県献血推進大会 (13:30~14:30)

長年献血にご協力いただいた功績がある団体や個人の方を紹介し、 県知事感謝状の表彰式などを行います。

第2部 献血フォーラム (14:45~15:30)

献血に対する理解を深めるため、白血病を克服し、現在長崎大学医学部 に通う熊谷知香さんの輸血体験発表などを行います。

第3部 長崎大学ジャグリング部 (15:30~16:00)

輸血体験発表をされる熊谷知香さんの所属する部です。

(問い合わせ先) 長崎県薬務行政室

(TEL: 095-895-2469 FAX: 095-895-2574) ※記載している時間は目安です。会の進行により多少前後する場合があります。



#### 参加者の特典!

フェスタに参加いただいた皆さんには、 記念品を準備しています。 お気軽にお立ち寄りください。



【長崎大学ジャグリング部からのメッセージ】 私たち、長崎大学ジャグリング部"jackpot"は2003年に創立 した比較的新しい部活動です。

入場無料

普段は大学生活の合間を縫って技の練習をしています。そし て、その成果を地域の行事や医療施設等で積極的に披露させて

ラロのショーに向けても一所懸命練習をしてまいりました! ショーを見てくださるみなさんに素敵な時間をお届けできた らなって思ってます♪ それでは、It's show time!!!!







### 【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (熊本県)U-39献血キャンペーン

10~30代の方を対象に、献血に興味を持ってもらうことを目的として、献血協力者に記念品を渡す。

【1目的】10~30代の献血者が減少傾向にあるため、献血への理解と協力を得て、献血率を向上させる。

【2内容】10~30代で400mL献血に協力いただいた方に、記念品として、お菓子の詰め合わせを配布する。

【3実施日・場所】平成27年10月1日(木)~平成28年4月30日(土) 全献血会場 【4対象者】10代~30代で400mL献血にご協力いただいた方

【5実施手順】8月 記念品選定

9月 チラシ作成

10月 キャンペーン(記念品配布)開始 献血ルーム及び大学周辺地区へ啓発チラシの配布 県内全高等学校及び専修学校への周知文書及びチラシの送付

【6実施に際して苦労したこと】魅力ある記念品の選定及び対象者への周知

【7予算額】約515万円(熊本県赤十字血液センター)

【8来場者】10月~2月計10,427名(前年比+39名)

【9効果(評価)】お菓子の詰め合わせの配布について、特に高校生や大学生から良い反応が得られた。

【10改善点】10月のチラシ配布直後は献血者の明らかな増加が見られたが、持続しなかった。 【11今後の課題】継続的な効果を得るため、周知方法を検討する必要がある。

### 【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 (熊本県)献血デビューキャンペーン

【1目的】献血未経験者の協力数を確保することにより、安定的な献血者の確保に繋げ、さらに、 上半期に行うことによって下半期へ向けて年間複数回献血者の土台を形成する。

【2予定内容】・初回献血者に、記念品「けんけつちゃん×くまモンコラボトートバッグ」(写真参照)を 配布する。

・チラシを作成し、献血ルーム及び大学周辺地区に配布して周知する。

ポスターを作成し、献血会場で掲示して周知する。

【3実施日·場所(予定)】平成28年5月1日(日)~平成28年9月30日(金) 全献血会場

【4対象者】初回献血者

【5昨年度実績】平成27年5月~9月 初回献血者数1,934人

【6実施手順】2月 記念品作成

4月 ポスター・チラシの作成

5月 キャンペーン開始・チラシ配布

【7予算額】約235万円(熊本県赤十字血液センター)

(内訳:チラシ作成40万円、ポスティング32万7千円、

生活情報誌掲載42万4千円、記念品作成120万円)

【8目標(効果)】キャンペーン期間中、初回献血者を2,500人確保する。

【9実施に向けた課題】効果的な周知方法を検討する。

### 【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (大分県)事業名「高校生献血の輪拡大推進事業」

#### 「高校生献血の輪拡大推進事業」は、高校生が学校内外での献血の 必要性、重要性の啓発活動を実施する事業である。

#### 【1 目 的】

若年層献血推進について、高校生自らが学校内外で実施する具体的な取り組みを提案し、献血の必要性、重要性を訴える啓発活動を行うことによって、高校生全体の献血推進に対する機運を 高める中核となる学校としての役割を担うことを目的とする。

#### 【2 内容】

主な活動内容

- ①校内での献血の実施、啓発物品の配布による呼びかけ
- ②文化祭での献血パネルの作成・展示、プレゼンテーションの実施、DVD上映

③献血に関するアンケート、クイズの実施

- ④講演会の開催
- ⑤献血推進団体主催の献血事業への参加
- 6献血ポスターの作成
- ⑦献血キャラクターの周知(着ぐるみ等)

#### 【3 実施日・場所】

- 〇研修交流会 平成27年8月11日
- 〇活動報告会 平成28年2月28日



#### 【4 対象者】

活動登録校の生徒(平成27年度は13校が活動校として登録)

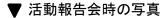
#### 【5 実施手順】

- ①実施校の募集(随時)
- ②実施校による活動開始
- ③研修交流会の開催
- ④活動報告会の開催(記念品の贈呈)



▲ 高校での校内活動時の写真

- 【6 実施に際して苦労したこと】 交流会・報告会を開催する際の日程調整
- 【7 予 算 額】 471千円
- 【8 効果(評価)】 活動校の学生たちの献血への認識は高まり、献血推進への効果があった。
- 【9 今後の課題(又は今後の対応方針)】 活動校のさらなる掘り起こし





### 高校生献血の輪拡大事業スケジュール

月

4月~5月 高校生献血の輪拡大 担当教諭への 推進校募集及び決定 事業内容の周知と 決定と実行

6月~7月 活動方針の決定

8月~12月 プランニングの 1月~2月 活動報告と 優秀校の決定

●活動報告会の

優秀校選定の

ための審査員を

開催。

依頼。

実施内容及び協力関係者

私学振興課を 通じて、各高校 に事業への協力 を依頼し、拡大 推進校を募集

●拡大推進校の

決定

●高校教育課及び

●拡大推進校 担当教諭に対し 事業の詳しい 内容と、献血の 現状及び献血の 輪拡大活動の 進め方について 説明

- ●各学校で生徒に よる献血推進の 活動方針を検討
- ●研修交流会に おいて献血に 関する知識を 取得。 交流会開催に あたっては、 日赤、学生献血 推進協議会(学 推協)に出席等 協力依頼。
- ●活動方針に従い、 各校で活動を 開始

高校生献血 の輪拡大

将来に亘る献血者の確保

32

### 【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (大分県赤十字血液センター)「献血セミナーの実施」

【1目的】・・・・献血セミナーを通じて将来を支える次の世代に献血に対する理解を深めてもらう。

【2内容】・・・・小中高校生を対象に献血セミナーを実施。

【3実施日・場所】・・・・小学校3校。中学校5校。高校12校。

その他3校

(詳細は別紙献血セミナー開催状況参照)

【4対象者】・・・・小中高校生。





【5実施手順】各学校に依頼をし、日程を調整して頂く。

【6実施に際して苦労したこと】・・・どのような情報を小中高校生に伝えたらいいのか内容検討。

【7予算額】なし

【8来場者】5.330人

【9効果(評価)】・・・献血に対する理解が伝わり、一部の高校生は献血ルームに来所した。

【10改善点(又は問題点又は反省点)】教育委員会を通じて、校長会でセミナー開催の働きかけを行っている。

【11今後の課題(又は今後の対応方針)】セミナー実施は血液センターから働きかけを行っているものであり、学校からの申し出は少ないのが現状である。また、大分県内では高校献血の実施校が非常に少ない(特に県立高校)ため、セミナーや教育委員会を通じての状況改善。

#### 平成27年度 小中高校生を対象とした献血セミナーの開催状況

#### 聴講生徒総数 5,330人

No	学校区分 (合計)	学校(団体)名	対 象	受講者数 (生徒数)	実 施 日	時 間	備考	マスコミ取材
1	小学校 (3+中止1) 189名	津久見市立千怒小学校	6年生	28名	7月9日(木)	10:45~11:30	体のしくみ、血液の働きについて 脈拍測定、心音の聴診	
2		日田市立咸宜小学校	5年生	87名	8月25日(火)	14:10~14:55	血液の働きと献血について DVD(アンパンマンのエキス) 台風のため中止、後日資料配布	
3		大分大学教育福祉科学部附属小学校	5年生	120名	10月29日(木)	10:45~11:30		
4		豊後高田市立桂陽小学校	6年生	41名	12月11日(金)	10:35~11:20		ケーブルネットワークセンター
5	中学校 (5) 533名	臼杵市立西中学校	2年生	147名	7月11日(土)	9:40~11:30	ふれあい学校保護者参加	大分合同新聞臼杵支局
6		日田市立三隈中学校	1年生	184名	9月29日(火)	13:35~14:25		OBS、大分合同新聞日田支局
7		津久見市立第一中学校	3年生	74名	11月18日(水)	13:40~14:30		
8		豊後高田市立河内中学校	全校生徒	16名	2月9日(火)	14:40~15:30		大分合同新聞豊後高田支局
9		豊後高田市高田中学校	2年生	112名	2月12日(金)	15:05~15:50		
10	高 校 (公立6、私立6) 4、478名	(公立)大分工業高校	全校生徒	824名	7月17日(金)	9:40~10:10	1学期終業式(体育館)	TOS、NHK 大分合同新聞
11		藤蔭高校	全校生徒	266名	8月4日(火)	10:30~10:50	献血前に実施	
12		柳ヶ浦高校	全校生徒	500名	9月28日(月)	8:50~9:35		
13		(公立)大分東高校	全校生徒	564名	10月9日(金)	13:45~14:30	保健の行事として	
14		福徳学院高校	全校生徒	420名	11月25日(水)	15:10~15:30		
15		別府溝部学園高校	全校生徒、専攻科 4、5年生	550名	12月14日(月)	14:00~15:00		
16		昭和学園高校	JRC、生徒会	42名	12月16日(水)	15:45~16:35		
17		(公立)宇佐産業科学高校	3年生	144名	12月22日(火)	12:00~12:30		
18		(公立)大分雄城台高校	全校生徒	716名	12月24日(木)	14:00~14:20	2学期終業式(体育館)	読売新聞
19		(公立)国東高校	3年生	160名	2月2日(火)	11:50~12:20		
20		(公立)情報科学高校	3年生	192名	2月5日(金)	9:00~9:30		
21		明豊高校	3年生	100名	2月19日(金)	11:40~12:30		
22	その他 (3) 130名	宇佐少年少女発明クラブ	5, 6年生	20名	8月7日(金)	16:00~16:30	血液の働きと献血について 血液型測定	宇佐ケーブルテレビ
23		青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング センター	高校生	40名	8月5日(水)	16:00~16:30		
24		高等学校青少年赤十字救急法大会	高校生	70名	2月11日(水)	13:50~14:20		

≪参考≫H27年度献血実施高校

①藤蔭高校(9/4) ②柳ヶ浦高校(11/6) ③大分東明高校(12/7) ④日本文理大学附属高校(12/17) ⑤東九州龍谷高校(1/28) ⑥宇佐産業科学高校(2/4)

### 【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 (大分県)事業名「献血推進地域連携強化事業」

#### 【1 目 的】

少子化の進展により献血可能人口が減少することや高齢化に伴い輸血量が増加することから、医療 に必要な輸血用血液の安定的な確保が危惧されている。

さらに、市町村合併後は市町村献血推進協議会設置市町村の減少など、市町村の献血推進体制基盤が弱体化している。

このようなことから、保健所(保健部)、市町村、大分県赤十字血液センター、地域の献血推進協力団体等による連絡会を開催し、地域の献血推進体制の再構築及び活性化を図ることを目的とする。

#### 【2 予定内容】

〇市町村献血推進連絡会の設置及び運営 保健所単位で献血推進連絡会を設置・開催し、協議会構成員の献血推進に関する役割や

保健所単位で献皿推進連絡会を設直・開催し、協議会構成員の献皿推進に関する役割や 連絡体制を確認するとともに、連絡会構成員がそれぞれの役割を実行する。

#### 【3 実施日·場所(予定)】

- 〇6月~7月 連絡会を開催
- 〇8月~翌年3月 各種啓発活動の実行

#### 【4 対象者】

- 〇保健所(保健部)職員
- 〇市町村献血担当職員
- 〇大分県赤十字血液センター職員
- 〇ライオンズクラブ、レオクラブ、 商工会会員
- 〇高等学校養護教諭又はボランティア部等の担当教諭
- ○学校薬剤師など

#### 献血推進地域連携強化事業について

#### 安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律

#### 地方公共団体(都道府県及び市町村)の責務

献血について住民の理解を深めるとともに、採血事業者による 献血の受入れが円滑に実施されるよう必要な措置を講じなけれ ばならない(第五条)

#### 採血事業者(赤十字血液センター)の責務

献血の受入れを推進し、血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保に協力するとともに、献血者等の保護に努めなければならない(第六条)

#### 市町村の献血に関する現状

#### ①市町村合併前後の献血推進協議会の減少

平成16年 58/58市町村 →平成27年 3/18市町村 市町村における 献血推進体制の 整備の必要性

#### ②市町村合併前後の献血者数の減少

平成15年度と比較し、平成25年度の 献血者数が減少した市町村 16/18市町村 ※平成15年度における58市町村の献血者数を 合併後の市町村毎に集計後比較

#### 市町村

県(薬務室・保健所・保健部)

#### 大分県赤十字血液センター

地域団体(ライオンズクラブなど)

その他献血推進協力団体

### 献血推進地域連携強化事業

『市町村献血推進連絡会』を開催 献血推進関係者が集まり、情報提供、献血推進計画等の策定、啓発の実施などを行う

### 【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (宮崎県)がんばる献血応援団事業

【1目的】将来の献血者を確保するため、献血可能年齢 となる高校生に対して献血の重要性を理解して もらうためのセミナーを実施する。

【2内容】献血セミナーの実施、校内献血の実施

【3実施日・場所】県立高等学校長会:平成27年5月11日 献血セミナー、高等学校献血 適宜

【4対象者】 高校生及び高等学校教諭



【5実施手順】県立高等学校長会において、献血セミナー受入れ及び校内献血の実施を依頼した。 各保健所の献血担当者及び血液センター担当者で、高等学校へ献血セミナー実施 の依頼を行った。

「献血についての知事メッセージ」を作成し、全校当学校に配布した。

【6実施に際して苦労したこと】

【7予算額】印刷製本費 168,480円(12,000部)

【8来場者】献血セミナー:1,390人

高等学校献血:403人

【9効果(評価)】高等学校での献血実施回数が6回増加し、献血者数は196名増加した。

【10改善点】知事メッセージ作成が年末になったため、献血セミナーの受入についての働きかけに 十分活用できなかった。

【11今後の課題】献血実施に抵抗のある高等学校があるため、校長の他に養護教諭等に対して 献血の受入について、引き続き理解を求める必要がある。

### 【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 (宮崎県)夏休み献血ルームカリーノ親子見学会

【1目的】若年層に対する献血推進活動として実施。普段は献血に接することのない児童に対して、 献血への興味・関心を持ってもらうことで将来的な献血推進に資することを目的とする。

【2予定内容】献血と血液の話、DVD映写会、献血クイズ、献血ルーム見学、献血体験(希望者)

【3実施日・場所(予定)】・実施日:平成28年7月

•場 所:献血ルーム及び近隣施設

【4対象者】小学4~6年生児童と保護者

【5昨年度実績】小学生27名(4年生11名、5年生12名、6年生4名)

保護者22名

合計49名

【6実施手順】教育委員会に資料説明を行い、了承を得た後、 各小学校に文書で参加者募集案内する。

【7予算額】若年層向け献血啓発資材作成費 216,000円 【8目標(効果)】献血への興味・関心を持ってもらい、将来的 な献血推進に資する。

【9実施に向けた課題】現時点では宮崎市内小学校のみを予定しているが、参加人数及び受入体制によっては対象範囲を広げることができないか検討したい。



# 平成27年度に取り組んだ献血推進事業について【鹿児島県】「輝けヤングハート&ヘルス事業」

#### 【目的】

本事業は、市町村が行う若年層の健康増進・疾病予防対策と、献血事業を同時に実施することで、効果的かつ効率的に事業を展開し、若年層の健康増進・疾病予防並びに、若年層献血者の献血率の向上を目的とする。

【内容】献血時の検査と併せて、特定検診に準じた生活習慣関連の検査項目を増やし、問診・腹囲 測定を実施する。

【実施日・場所】平成27年度は10市町で実施

【対象者】18歳~39歳で、健康チェック・献血をどちらかまたは、両方希望する方

#### 【実施に際して苦労したこと】

・検診の場所の確保が困難なことがある。案内・誘導のためのスタッフが必要。

【来場者】献血者(400mL)数 778名

健康チェック者 293名

#### 【効果(評価)】

- ・献血バスでの20代30代初回献血率は、県全体よりも本事業での方が割合が高く、はじめて献血に参加するきっかけとなっている。 【改善点】
- ・SNS等で事前広報をしているが、周知が不十分であるため、若者のサークル等を活用した広報を検討する必要あり。

#### 【今後の課題】

・今後の事業費の確保がむずかしいこと、血液センターの事業方針の変更、血液事業を取り巻く環境の変化等の理由により、平成27年度末で中止となった。





## 平成27年度に取り組んだ献血推進事業について 【鹿児島県】「ヤング献血フォーラム」

#### 【目的】

本事業は、若年層の献血者が減少している現状から、ミニライブやトークセッション等を通じて、10代~30代を対象に、命の大切さや献血の意義・重要性等について啓発し、献血への関心を高め、理解と参加を呼びかけることを目的とする。

【内容】ミニライブ、献血DVD上映、献血トークセッション 【実施日・場所】平成28年2月11日(木) 鹿児島市民文化ホール第2 【対象者】高校生以上39歳以下

### 

#### 【実施に際して苦労したこと】

・テレビCMの効果が思わしくなく応募者確保に苦労した。 【来場者】373名

#### 【効果(評価)】

- ・今まで献血に無関心だった若年層に献血の重要性をPRできた。アンケートに「ぜひ献血したい」などの意見もあった。 【今後の課題】
- より多くの若年層に参加してもらえるような広報を展開する。



### 平成28年度に取組予定の献血推進事業について (鹿児島県)血液教育事業

#### 【目的】

本事業は、将来にわたり若年層が安定的に血液需要を支えていくために、献血年齢に達する直前の中学3年生に対して、学校薬剤師が講話等を通じて、血液に関する正しい知識や献血の重要性を教育することを目的とする。

#### 【予定内容】

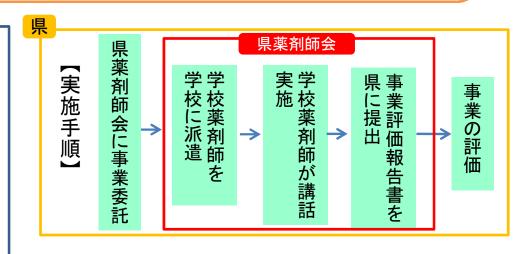
事業を県薬剤師会に委託する。

県薬剤師会は、会員の学校薬剤師を学校に派遣し、中学3年生の生徒に対して、パンフレットやDVD等を用いて、献血に関する講話をする。

【実施日・場所】通年, 県内150校

【対象者】中学3年生

【平成27年度実績】県内148校



#### 【予算額】1,193千円

#### 【目標(効果)】

・血液に関する正しい知識を身につけ、献血の重要性を理解してもらう。

#### 【実施に向けた課題】

委託事業を継続するため、県薬剤師会と連携を図る。





## 【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (沖縄県)サンキューレター&応援メッセージ・交換セレモニー

【1目的】・・・・血液だけでなく、献血者の声も患者さんへお届けすることによって、献血に対する意 識の向上を図る。また、献血に協力するボランティアの方がいることを伝える。

【2内容】・・・・献血者に患者さんへ向けた応援メッセージを書いていただく。また、患者さん(ご家族)の方に献血者へ向けたサンキューレターを書いていただき、双方を交換するセレモニーを開催することによって、献血運動の推進を図る。

【3実施日・場所】・・・・平成27年7月30日(木) 琉球大学医学部附属病院エントランスホール 【4対象者】・・・・沖縄県学生献血推進協議会員、沖縄県血液センター職員、琉大病院職員

【5実施手順】・・・学推協主催の七夕献血で献血者に応援メッセージを書いていただく。また、血液センターMRから主治医を通して患者(家族)ヘサンキューレターを書いていただく。 医療機関にて双方の交換セレモニーを行い、マスコミ各社へ取材・報道依頼を行なう。

【6実施に際して苦労したこと】・・・サンキューレターを集めること。

【7予算額】・・・なし。

【8来場者】…30名

【9効果(評価)】・・・参加された病院職員へは意義をご理解いただけたが、マスコミの報道がなく、 効果は限定的なものとなった。

【10改善点(又は問題点又は反省点)】・・・マスコミに報道されるような情報提供に努める。

【11今後の課題(又は今後の対応方針)】・・・次年度以降も開催する。

### 【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 (沖縄県)献血に関する高等学校関係者向け講習会

【1目的】・・・・「高等学校学習指導要領解説保健体育編(平成21年7月)」に基づき、平成25年度から高等学校の保健体育の授業において、献血制度について適宜触れることとなったことに伴い、献血者が減少傾向にある若年層への啓発の一環として、県内の高等学校関係者への献血に対する十分な知識の習得と理解の向上に資することを目的とする。

【2予定内容】・・・・輸血を受けた方による体験談発表、パワーポイントによる県内の血液事業の現状 説明、取組事例発表

【3実施日・場所(予定)】・・・・平成28年7月、県庁会議室

【4対象者】・・・保健体育の教科担当教諭、養護教諭、校内献血担当教諭、その他

【5昨年度実績】・・・・9校(11名)

【6実施手順】・・・5月中に県保健医療部長名で県内各高等学校長あてに講習会案内文書を発出。 別途、血液センター職員が同文書(写)を持参し各校を訪問して参加を促す。

【7予算額】・・・1万円以内(体験発表者への謝礼、交通費)

【8目標(効果)】・・・献血実施校数の増加(27年度 39校41回)

【9実施に向けた課題】・・・講習会参加者を増やす。